

資料 第6学年家庭科の実践授業から ～授業者による振り返り・協議会～

〔題 材〕 「こんだてを工夫して～わくわくお弁当大作戦!!」 5時/9時間

〔ねらい〕 自分の課題解決につながる栄養バランスを意識したお弁当作りに向けて、同じ課題を設定している児童がグループになり、前時に各自が課題解決に向けて考えたお弁当の献立を持ち寄り、意見交流をしながら実際に調理する献立を考える。また、お弁当の名前を決める。

〔ICT 活用〕 ・グループで考えた弁当の献立を、オクリンクのカードにまとめ、全体で共有する。
・学習の振り返りを、オクリンクのカードにまとめる。

〔授 業〕

めあて：自分たちの課題と栄養バランスを意識しながら調理実習で実際に作る弁当の献立を考えよう。



① 前時までの学習を振り返り、自分が考えた献立を見直す。自身の課題と課題を解決するために考えたお弁当のポイントを確認する。



② 似ている課題を設定した児童で集まってグループをつくり、各自で持ち寄った献立をもとに、課題解決に向けて交流し、調理実習で実際に作る献立やお弁当の名前を決める。



③ 課題解決に向けて、自分たちで考えたお弁当の献立とポイント、名前について伝え合い、全体で交流する。



④ 今日の学習を振り返り、次回の学習について見通しを持つ。

〔協議会より〕



(授業者と参観者による協議より)

- ・家庭科室使用の調整により、6 学年では、題材を入れ替えて 9 月から 3 か月間続けて食の題材の学習を行った。結果的に、学習の積み上げを生かす形となり、学習を進める度に児童の成長が見られた。
- ・「こんだてを工夫して」の学習で、「お弁当づくり」を扱うことにした理由は、自分で考えたり、決めたりする要素が多く、わくわく感が味わえること、小学校の調理実習において 1 食分を実現できること、これまでに学習したことを生かせること、児童の今後の生活につなげられることからである。
- ・ICT の活用について、学習したことを記録に残し、必要に応じて自分ボックスから取り出せることや、学級で共有しながら学習を進められること、欠席児童も学習の過程を共有できる点において効果的だった。
- ・栄養教諭と一緒に学習を進めることで、給食室で実際に使っている調理計画表を使用したり、栄養を意識したりするなど、専門的な視点から学ぶことができた。

(指導主事による指導・助言より)

家庭科教育で求められている課題解決型の実践となった。家庭科教育では、課題解決を通して家庭科で身に付けさせたい力を育てていく。第 1 時では、児童自身の日常生活と食生活を見つめ直し、今後の目標や決意などから一人ひとりの児童が課題設定を行った。課題は違っていても、学習のゴールには「お弁当づくり」という共通の教材があり、自身の課題解決に向けて取り組むことをねらい、学習を積み上げている。また、その先には児童が家庭生活でも実践できるようになってほしいという、教師の思いが込められている。後日参観した、題材の学習を振り返る場面では、「野菜が苦手だったけれど、味付けを変えたら食べられるようになった。」「彩りを考えるようになった。」など、教師がねらっていた回答をする児童の姿が見られた。題材を作る前に、題材が終わった時に児童のどのような姿を目指したいかを明確にして、「単元(題材)づくり」や「授業づくり」を行っていくことが大切である。